

CUMA OS のパスワードリセットが「pwrecovery」プロセスで失敗する

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策 1](#)

[解決策 2](#)

[関連情報](#)

概要

Cisco Unified Mobility Advantage(CUMA)は、Cisco Unified Communications製品ファミリの一部です。CUMAは、従業員の携帯電話をディレクトリサーバ、IPコミュニケーションシステム、グループウェア、会議サーバ、およびその他の企業リソースに接続する、企業ファイアウォールの背後に導入されるサーバソフトウェアです。これにより、重要なビジネスコミュニケーション機能がモバイルハンドセットに拡張され、すべてのユーザがより効果的にコミュニケーションできるようになります。

このドキュメントでは、Cisco Unified Mobility Advantageサーバのパスワード回復をトラブルシューティングするためのガイドラインについて説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CUMAサーババージョン7.1.2.3に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

問題は、SSH、CLI、またはプラットフォームページでログインできないことです。pwrecovery手順が試行されましたが、コンソールにログインできません。パスワード回復中に許容できないパスワードが入力された場合、そのパスワードは使用できません。パスワードのリセット中に受け入れられないパスワードは、少なくとも3種類あります。

- パスワードが短すぎます
- パスワードが一致しません
- 辞書のパスワード

注：これらのタイプのいずれかが使用されている場合は、エラーが表示されます。正しいパスワードを入力すると、パスワードがリセットされたように見えます。ただし、パスワードは使用できません。この場合、パスワード回復を試みても機能しません。プラットフォームのGUIまたはCLIにログインできません。

解決策 1

管理者パスワードを覚えていない場合は、リセットする手順を次に示します。パスワードをリセットする方法は2つあります。1つ目はリカバリCDを使用せず、もう1つはCDを使用します。

1. rootアカウントでlinux boxにログインします (これは標準のlinux boxです)。
2. 次のサービスが実行されていることを確認します。/sbin/service cuma_db start/sbin/service cuma_admin start/sbin/service cuma_nm start
3. viエディタを使用してファイルを編集します。/opt/cuma/conf/admin/admin.xml にアクセスしてください。
4. 次の行を検索します。

```
<name>admin_password</name>
```

```
<value>{MD5}xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx</value>
```

次のように変更します。

```
<name>admin_password</name>
```

```
<value>{plain}new_password</value>
```

5. サービスを再起動するには、次のコマンドを使用します。
/sbin/service cuma_admin restart
6. 「admin」および「new_password」を使用してログインします。

解決策 2

pwrecoveryプロセスの使用時にOS管理者パスワードをリセットできないという問題があります。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. リカバリCDを使用してシステムをブートします(7.1.2以降を推奨)。
2. インストールを検出できることを確認します (これはリカバリCDのメインメニューで印刷されます)。
3. Alt+F2キーを押して、リカバリCDのルートシェルにアクセスします。

4. アクティブなパーティションは/mnt/part1上にある必要があります。正しくマウントされていることを確認してください。
5. `chroot /mnt/part1 rpm -q master`コマンドと`chroot /mnt/part2 rpm -q master`コマンドを実行して、アクティブなパーティションを見つけます。
6. これらのコマンドを実行し、返された結果からサーバの動作バージョンを見つけたら、それを動作パーティションとして使用する必要があります。
7. 新しいインストールの場合は、`chroot /mnt/part1`でアクティブなパーティションを入力します。
8. サーバがアップグレードされている場合は、その特定の部品番号(`chroot /mnt/part<no>`)を使用します。
9. 以前のリリースでは、`/root/.security/unimmunize.sh`を実行して、`/etc/passwd`から不変ビットを削除します。
10. `/etc/passwd`を編集して、`root:x:0:0:root:/root:/sbin/nologin`を`root:x:0:0:root:/root:/bin/bash`に変更し、変更内容を保存します。
11. `passwd root`コマンドを実行し、プロンプトにパスワードを入力し、確認します。これで、アクティブパーティションにブートするときにルートアクセスが可能になります。
12. `Alt+F1`キーを押して、メインのリカバリCDメニューを取得し、`q`と入力して終了します。次に、`cd`を取り出します。
13. 再起動するには、`Ctrl+Alt+Delete`を押してください。
14. この後、SSHをrootとして使用し、次のコマンドを使用してOS adminの一時パスワードを設定します。`passwd admin`。ここで、adminはOS管理者のユーザー・ログイン名です。注：ここでは、パスワードは一時的にのみ使用されます。もう一度行う必要があります。
15. `su - admin`コマンドを使用してCLIを起動します。ここで、adminはOS管理者のログイン名です。
16. データベースのパスワードを変更するには、`set password user <admin id> CLI`コマンドを使用します。
17. CLIを終了します。
18. 次のコマンドを使用して、データベースパスワードと一致するようにOS管理者のシステムパスワードを設定します。`passwd admin`。ここで、adminはOS管理者のログイン名です。注：この問題は、Cisco Bug ID [CSCtf25554\(登録ユーザー専用\)](#)に記載されています。

関連情報

- [Cisco Unified Mobility Advantageの設定ウィザードの使用](#)
- [ASAによるCisco Unified Mobility Advantage サーバ証明書の問題](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)